

奈文研

ニュース

No.33

Jun.2009

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

平城資料館の改修

現在の平城資料館は、1970年に当時の平城宮跡発掘調査部の庁舎だった建物を改修してオープンしました。その後、1987年の展示改修を経て現在に至っています。展示改修後にもいくつかの手直しをおこなうとともに、新しく製作した模型も追加して展示しています。

今回、来年度の平城遷都1300年記念事業の実施に伴って、資料館の全面的な展示改修が計画されました。改修に当たっては、これまで以上にわかりやすい展示を目指すこと、平城宮跡の西のエントランスゾーンとして、平城宮跡のガイダンス機能を中心とすること等の基本的な考え方が示されました。この基本構想に沿って計画した概念図を元に、2009年度に施設整備費として改修の予算が計上され、具体的に計画が開始されました。

2008年度中に展示委員会のワーキンググループが数回開催され、具体的な展示構成案がまとまりました。本紙面を借りてその概要をご報告します。

まず資料館への入口をこれまでの北側から南側に変更するとともに、動線を一本化しました。この変更に伴って、入口前に大きなシンボルサインを設け入口を明示するようにしました。また館の東側にはウッドデッキを設け、椅子やテーブルを設置して大極殿や大仏殿の屋根などを眺めながらゆったりと眺望を楽しんでいただけるように工夫しました。



官衙(役所)の復元(イメージ)

ガイダンスルームには発掘調査の模型を設置するとともに、大型ディスプレイで発掘調査から復元された平城宮跡の姿をVR映像で紹介することにしました。VR映像は任意の位置や角度から眺めることができ、オペレーターを置いて、様々な角度から復元平城宮を眺めていただきながら解説をおこないたいと考えています。

展示のメインは官衙(役所)と宮殿の復元ジオラマです。わかりやすい展示を目指し、まず当時の平城宮にあったであろう官衙と宮殿の内部を、正倉院宝物の復元品を置いて再現する予定です。最後のコーナーでは都城調査部のある研究室を再現します。中央に実測道具の置かれた古い机を用意します。机の左右の壁面を利用して、土器と瓦を年代順に展示し、それぞれの移り変わり、遺物に対する研究を表現したいと考えています。反対側は壁全体をケースとし、木簡や人形、工房遺物などテーマごとの展示をおこないます。

展示を出たところには、ミュージアムショップを拡大設置します。中庭は現在の復元庭園を踏襲しますが、若干規模を縮小するとともに周囲を板塀で囲って、復元庭園としての眺望により配慮した構成にしたいと思います。

6月休館後の作業は時間との闘いになります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(企画調整部 杉山 洋)



宮殿の復元(イメージ)